令和２年３月 13 日
新潟県病害虫防除所

令和元年度
新潟県病害虫発生予察速報第１４号
（アカヒゲホソミドリカスミカメのジノテフラン剤に対する感受性低下事例）

県内の一部地域でジノテフラン剤に対して感受性が低下したアカヒゲホソミドリカスミカメが確認されました。現時点では県下全域で直ちに他剤に切り替える必要はありませんが、今後も連用すると更に感受性が低下する懸念があります。令和２年度に、県内全域で感受性モニタリング調査を実施し、情報提供を行う予定です。

１　アカヒゲホソミドリカスミカメのジノテフラン剤に対する感受性について

（１）令和元年にジノテフラン剤の薬剤感受性検定を行ったところ、新潟市西蒲区、南区及び見附市でジノテフラン剤感受性が低下した個体群が確認されました。

（２）ジノテフラン剤の感受性が低下した個体群に対しても、農薬登録上の使用濃度のジノテフラン剤は十分な防除効果があると考えられます（図）。ただし、今後もジノテフラン剤を連用することで、感受性がさらに低下する可能性があります。

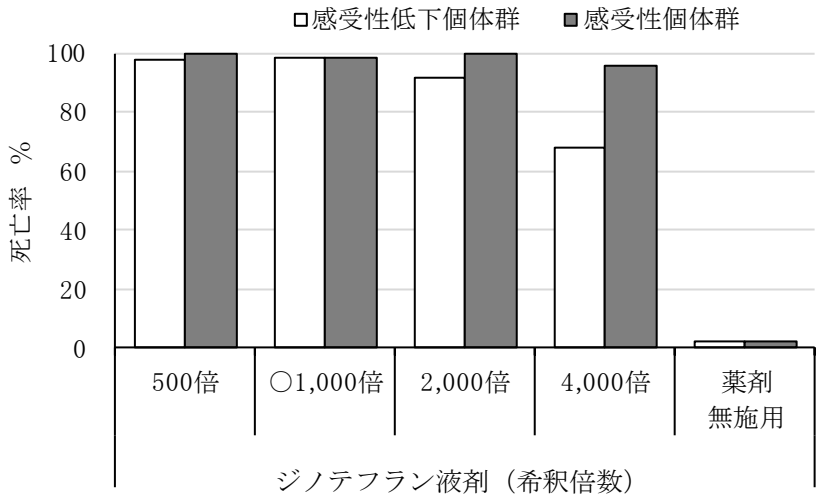

図　葉浸漬法によるアカヒゲホソミドリカスミカメ雌成虫の死亡率
（○は農薬使用基準の希釈倍数）

注）・葉浸漬法：圃場での防除効果を推定するため、植物の茎葉を所定濃度に希釈した薬剤に浸漬し、ここに供試虫を放して殺虫力を評価する方法。
・図の希釈倍数は薬剤に対する感受性を検定するために設定されたものであり、実際の使用に当たっては農薬使用基準を厳守すること。

（３）ジノテフラン剤感受性低下の要因

感受性低下個体群の確認地点ではジノテフラン剤や同系統の薬剤が長期連用されており、これらが感受性低下の主因と考えられます。

（４）ジノテフラン剤について

ジノテフランはネオニコチノイド系（IRAC コード：4A）に属し、県内では水稲殺虫剤として最も多く使用されています。斑点米カメムシ類、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、イナゴ類、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、イネカラバエ、イネクロカメムシの防除薬剤として下記の殺虫剤が平成 31 年度新潟県農作物病害虫雑草防除指針に掲載されています。

育苗箱施用剤：	アルバリン箱粒剤、スタークル箱粒剤、スターダム箱粒剤、 アプライスタークル粒剤、ブイゲットスタークル粒剤、ロングリーチ箱粒剤
側条施用剤　：	側条オリゼメートスタークル顆粒水和剤
本田処理剤　：	アルバリン粉剤 DL、スタークル粉剤 DL、アルバリン粒剤、スタークル粒剤、 スタークル液剤 10

２　今後の対応

（１）感受性低下個体群発生地域の対応

さらなる感受性の低下を避けるため、ジノテフラン剤および同系統の薬剤の連用を避ける必要はありますが、感受性の低下は防除効果が低下するレベルには達しておらず、直ちに他剤への変更が必要という状況ではありません。

（２）県内全域の対応

県内では共同防除実施地域を中心にジノテフラン剤を長期連用している地域が多く、現在判明している地域以外でもアカヒゲホソミドリカスミカメのジノテフラン剤感受性低下が発生している可能性があります。そのため、令和２年度に感受性低下個体の分布状況のモニタリングを県内全域で実施し情報提供を行う予定ですので、防除の参考としてください。

（３）アカスジカスミカメの対策

アカスジカスミカメでは、これまでに薬剤感受性の低下は確認されていないため、アカスジカスミカメが主要加害種である中生及び晩生品種の防除は、これまでどおりジノテフラン剤が使用できます。